

シグマ委員会  
元年度第6回運営委員会議事録(案)

日時： 1989年12月22日(金) 13:30~17:30  
場所： 日本原子力研究所本部 第5会議室  
出席者： 中嶋(法政大)、北沢(東工大)、吉田(東芝)、五十嵐(NEDAC)、  
瑞慶覧(日立)、石井、菊池、水本、長谷川(以上原研)  
幹事： 中嶋(原研)  
オブザーバー： 井頭(東工大)、岸田(CRC)、柴田(原研)

配布資料

- 1.元年度第5回運営委員会議事録(案)とアクションリスト
- 2.評価国際協力項目に対する日本側対応案
- 3.日本の評価済み核データライブラリー第3版の完成・公開
- 4.シグマ研究委員会諮問調整委員会 議事概要
- 5.日本原子力学会1990年年会総合報告(案)
- 6.評価用データベースSWG平成元年度作業報告
- 7.放射化断面積SWGの活動報告と来年度活動方針
- 8.平成元年度会合旅費予定額
- 9.炉定数専門部会活動報告
- 10.シグマ研究委員会光核反応データSWG1989年活動報告
- 11.崩壊熱評価ワーキンググループ作業報告及び作業計画
- 12.1989年核データ研究会のまとめ
- 13.データブック用プロット図の例

議 事

1. 前回議事録確認

前回10月30日の議事録(配布資料1)を確認した。

2. 事務局報告

1)原研内の人事移動により、11月15日から石井氏がシグマ研究委員会の委員長になった。

2)核データ評価国際協力について11月18日アドホック会合を開き決定した日本側の対応(配布資料2)について菊池氏が報告した。

3)動燃事業団からの委託について菊池氏が次の通り報告した。動燃事業団は来年度から高速実証炉開発に関連する委託をしない方針を決定した。シグマ委員会の旅費も影響を受けることになるが、原研内で対応策を検討中である。今年度と同程度の旅費を維持できる見通しである。

4)12月12日理事会でJENDL-3の公開が了承されたことを菊池氏が報告した。

5) 吉田氏がデータブックに載せるプロット図について例(配布資料13)を示して説明した。エネルギー下限を $10^{-1}$ から $10^{-3}$ に広げることと、閾反応の図では反応の曲線がどの反応に対応するかよく分かるようにして欲しいとの要望が出された。

6) NEA Data Bankの将来計画会議について菊池氏が次の通り報告した。核データの収集に4センターはもう必要ないのではないかとの意見やヨーロッパではもう10年も前にspallationによる放射能消滅は経済的に成り立たないとの結論が出ているとの発言があった。次回に議事録を配布する。

7) NEA Data BankのOn-lineサービスについて菊池氏が次の通り報告した。原研那珂研のVAXはData BankのVAXとうまくつながった。今後検索はOn-lineでやるが、データはいままで通り磁気テープで送って貰う。12月26日に核データセンター、計算センター、NEDACで会合を持つ。

8) 12月15日に行われた諮問調整委員会について水本氏が配布資料4に基づいて報告した。

### 3. 原子力学会1990年年会総合報告と特別会合のテーマについて

菊池氏が総合報告のテーマについて配布資料5を説明し、核データで総合報告3時間と特別会合2時間合計で5時間を取るの難しいとの原子力学会事務局の見解を報告した。総合報告について次のような案を決定した。

題目 JENDL-3の完成

内容	1. JENDL-3の概要	原研	菊池	康之	(20分)
	2. 原子炉計算における適用性	原研	高野	秀機	(60分)
	3. その他の分野への応用と今後の方向について	東大	中沢	正治	(40分)

特別会合は全体で1時間-1時間半、報告は一件とし、テーマは「動燃の炉定数調整について」を第一候補とするが、引き受けてもらえないときは、前回会合で挙がったテーマの中から決定することを事務局に一任する。残りの時間は事務局報告とする。できれば総合報告を午前中に行い、特別会合を午後に行うようにしたい。

4. 1989年核データ研究会のまとめについて井頭氏が配布資料12を説明した。会場の天井が低くOHPが見にくかった事と音響設備がよくなかった事が指摘された。原子力学会誌の談話室に終了報告を投稿することを決定した。

### 5. 平成元年度WG活動報告と平成2年度活動予定

・光核反応データSWG

配布資料10に基づいて岸田氏が報告した。

・崩壊熱評価WG

配布資料11に基づいて吉田氏が報告した。

・放射化断面積SWG

配布資料7に基づいて中島氏が報告した。

JENDL-3汎用ファイルと放射化断面積ファイルの評価値が異なることの問題点が指摘された。

・炉定数専門部会

配布資料9に基づいて長谷川氏が報告した。

JENDL-3の積分テストは今年度中に終了し、組織の再編成を行いたい、WGによっては来年度に持ち越すところが出るかも知れない。従って、来年度組織を再編成するかどうか未定である。

Fe-58等の問題の反応についてはドシメトリSWGと放射化断面積SWGとで合同会合などを持って解決してはどうかとの提案があった。

積分テストの報告で制御棒価値について話がないのは実用上大変問題であり、どこかに制御棒価値について計算を依頼すべきとの提案があった。

- ・次回会合には残りのWG（理論計算コードSWG、FP核データSWG、PKAスペクトルSWG、荷電粒子WG、核種生成量評価WG、核構造データ評価G）について報告してもらう。

6. 来年度シグマ研究委員会委員の発令準備が始まっている。専門委員については各部長が把握して事務局に知らせて欲しい。本委員については、職位指定による入れ替え以外は考えていないので、事務局に一任する。入れ替えの結果は次回に報告する。

## 7. その他

今回は2月16日に行うことにした。

### Action List

No.	担当者	内 容	期 限
1	事務局 吉田	データブックに載せる閾反応図の曲線がどの反応かよく分かるようにする。（手作業も含めて）	早急
2	菊池	NEA Data Bankの将来計画会議の議事録を入手し配布する。	次回
3	事務局	原子力学会春の年会の特別会合のテーマを決定する。	早急
4	各部長	来年度専門委員の変更を把握し事務局に連絡する。	1月早々
5	長谷川	制御棒価値の計算が出来るかどうか大阪大竹田氏に問い合わせる。	早急
6	事務局	本委員の入れ替えを報告する。	次回